

令和7年度第1回練馬区区政改革推進会議 議事概要

| | |
|-------------------------|---|
| 日 時 | 令和7年10月16日(木) 午後6時30分～8時30分 |
| 場 所 | 練馬区役所本庁舎5階 庁議室 |
| 次 第 | <p>1 開 会</p> <p>(1) 委員委嘱、委員長・副委員長指名</p> <p>(2) 委員長挨拶</p> <p>(3) 副委員長挨拶</p> <p>(4) 区長挨拶</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) これからの練馬区に望むこと～大江戸線延伸を見据えて～</p> <p>(2) 練馬区版総合戦略 重要業績評価指標（KPI）および第3次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン [年度別取組計画] の令和6年度末の進捗状況について（報告）</p> <p>3 その他の事項</p> <p>4 閉 会</p> |
| 配付資料 | <p>資料1 練馬区区政改革推進会議設置要綱</p> <p>資料2 令和7年度練馬区区政改革推進会議 委員名簿</p> <p>資料3 これからの練馬区に望むこと～大江戸線延伸を見据えて～</p> <p>資料4 練馬区版総合戦略 重要業績評価指標（KPI）および第3次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン [年度別取組計画] 令和6年度末の進捗状況</p> |
| 出席委員 (名簿記載順 ・敬称略) | 庄司 昌彦、土山 希美枝、相澤 愛、上野 美知子、中田 亘伯留、市橋 宗一郎、浦嶋 正男、江口 晓、田口 陽子、森 玲奈 |
| 欠席委員 (敬称略) | |
| 区出席者 | <p>区長 前川 照男</p> <p>副区長 宮下 泰昌</p> <p>副区長 森田 泰子</p> <p>教育長 三浦 康彰</p> <p>専門調査員 斎藤 瞳</p> <p>企画部長 佐古田 充宏</p> <p>企画部財政課長 西田 智史</p> <p>企画部情報政策課長 牧山 正和</p> <p>危機管理室長 後藤 俊一</p> <p>都市農業担当部都市農業課長 高橋 雄貴</p> <p>地域文化部地域振興課長 斎藤 宏志</p> <p>福祉部長 吉岡 直子</p> |

| | |
|-----|---|
| | 高齢施策担当部長 枝村 聰 環境部長 小暮 文夫 都市整備部長 中沢 孝至 都市整備部大江戸線延伸推進課長 大塚 峰生 区長室秘書課長 渡邊 秀樹 |
| 事務局 | 区政改革担当部長（企画課長）清水 輝一 区政改革担当部区政改革担当課長 岡芹 真史 |

1 開会

(1) 委員委嘱、委員長・副委員長指名

《《委員長の指名》》

《《副委員長の指名》》

(2) 委員長挨拶

【庄司委員長】

武藏大学社会学部メディア社会学科の庄司と申します。新たに委員になられた方もいますので、この会での私なりの心掛けをお話しします。この会議に関わっている数年間、区長から自由闊達な議論をして良いとお話をいただきました。非常に闊達で意義深い本音の議論ができていると実感しております。今期も、皆様それぞれの立場から自由闊達に議論いただきたいと思います。私自身も皆様のご意見を引き出せるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(3) 副委員長挨拶

【土山副委員長】

委員長からお話のありましたとおり、行政側からは見えない課題や問題点を引き出し、意見交換をすることが重要だと考えています。委員長と同様に良い議論の場を作るために私も尽力したいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(4) 区長挨拶

【区長】

本日はお忙しいなか、ご参加いただき真にありがとうございます。

今、日本は、少子化の進行、経済の低迷、国際的な地位の低下など、日本はかつてない国家的な危機に直面しています。必要なことは、少子化が続くなかで、経済と国家財政を立て直し、国際社会の競争に打ち勝つ経済成長戦略を確立すること、そして、社会保障制度を持続可能なものとして、希望の持てる未来像を示すことだろうと考えています。いずれも中長期的な視点で取り組むべき困難かつ構造的な課題です。しかし、残念ながら昨今、財源無しの消費税減税や給付金の支給など、目先のバラマキ論が横行しています。こうしたポピュリズムそのものである現状に、日本がどうなってしまうのか、その行く末に強い危惧の念を抱いています。

行政は、目先の人気取りであってはならない。後世の歴史の審判に耐えられる政策こそを実現しなければならない。政治家や行政の担当者は、自分なりの歴史観を持って、その

上に立って政策を立案し、実行しなければならない。そう考えています。

区長に就任して 11 年、私は微力ながら、それなりの歴史観を持って努力してきたつもりです。その結果、区民の皆さんと力を合わせた甲斐があって、練馬区は更なる発展の時を迎えていると感じています。福祉医療サービスは飛躍的に充実し、都市基盤整備も着実に進みました。なかでも、区政最大の課題である大江戸線の延伸は、実現に向けて大きく前進しました。大江戸線の延伸は、私が区長になって一番難しい課題でした。それは立場によって全く意味合いが異なるからです。練馬区にとって最も重要な課題ですが、都や日本全体で見ればそうではありません。それをどうやって実現するか、大変な苦労がありました。職員が頑張ってくれました。こうした困難を乗り越えて、今、人口は 75 万人を超え、今後も増加を続ける見込みです。練馬区は全国でも稀な、豊かな可能性を持つまちであると考えています。

一方で、文化や建築物など、練馬区ならではというものが何かあるかというと、残念ながらないです。練馬区と聞いて何を思い浮かべるか、大半の方は練馬大根だと思います。これはこれで農業者の皆さん方が積み上げてこられた努力の成果であり、練馬の誇るべき歴史です。しかし私は、新しい歴史を創りたい。それが私の大きな念願です。その大きな柱の一つが文化芸術の振興だと、私は考えています。新美術館の再整備もその一環です。

私はこうした考え方を持っていますが、皆さんはどう思われるか、それを是非聞かせて頂きたい。皆さんのご意見を基に、政策を立案し、練馬区を更に前に進めたいと考えています。

今回から新たに 4 名の方に加わっていただいています。昨年度に続き、庄司委員長、土山副委員長のお二人に議論をリードしていただきながら、自由闊達な議論をお願い申し上げたいと思います。どうかよろしくお願いします。

2 議題

【庄司委員長】

次第に従いまして、2 議題に入ります。

議題（1）これから練馬区に望むこと～大江戸線延伸を見据えて～に関して資料 3 が示されていますので、事務局より説明をお願いします。

【区政改革担当課長】

《資料 3》説明

【庄司委員長】

本日は「これから練馬区に望むこと」というテーマで、幅広く課題や期待について、様々な観点からご意見をいただきたいと思います。大江戸線の話題に関連することでも、それ以外の観点でも構いません。ぜひ、今後の練馬区に対するご期待やご意見をお話しいただければと思います。

【委員】

この会議の発足当初から参加させていただき、この間、区民協働が非常に効果的に働い

てきていると感じています。子育て支援について、私も地域で長年活動しています。今月、子育て世代をターゲットにした託児付きのイベントを開催しますが、その情報がなかなか届きません。現在の子育て世代がどのように情報を得ているか伺うと、多くがSNSを利用しているとのことです。区のSNSなどの広報ツールに、地域で行われている活動をすべて載せるのは難しいということは理解していますが、協働してうまく情報を届けられる手立てがあれば良いのではないかと感じています。自分たちの開催する講座や活動を、区のSNSを使って紹介することはできないといった話を聞くこともあります。また、参加費が必要な場合、区の施設にチラシを置くことができないなど、様々な壁が存在します。開催者としての思いがなかなか届かない現状があり、何かこうした課題を解決する方法を検討していただけたら嬉しいです。

【庄司委員長】

区の広報媒体やSNSなどを使った情報発信は行われていますが、地域の情報発信が薄いように感じました。これは非常に重要な問題で、例えば災害が起こった時、行政が発信する情報は確定した公式情報が中心になります。しかし、地域のメディアは、多少確度が低くても「危ないぞ」といった注意喚起や、「ここに行けばこういう物資がもらえる」といったきめ細かい情報も発信できます。そういう中間的なメディアが課題なのではないかと受け止めましたが、いかがでしょうか。

【委員】

確かに、年齢層が違う子育て世代のことをうまく理解できていない部分もありますし、地域には様々な人がいるため、委員長のお話のような中間的なメディアや情報のハブになる人がいれば、地域活動がもっと効果的に広がるのではないかと思います。

【委員】

地域の独自メディアについて、同じことを感じています。地域活動のチラシを作っても参加費が必要だと置けないなどの制約があり、私たちの活動でも同じ問題があります。結局、メディアを使わず地道に一軒ずつ周り、チラシを配布することを続けています。例えば非営利活動を証明できる仕組みを作り、証明書があれば区の施設にチラシを置けるようにするなどの方法は考えられますが、その審査を誰がするのかという課題もあります。

また、大江戸線延伸に関して、区の人口が増加する見込みであることは資料からも分かりますが、区長がおっしゃっていたように、練馬区には特色ある地場産業がないと感じています。大泉学園はチェーン店が多く、地元の人々が営む店が少ないと感じられないところがあります。地元の人々が営む店が多いと愛着を持ってもらえるのではと思いますが、地元の人を対象とした創業支援の施策として、どのような取組が行われているのか教えていただきたいです。

【区政改革担当部長】

区としても、創業支援、つまり産業を育てるための土台作りは重要視しています。皆様から見ると少し規模が小さいと感じられるかもしれません、企業としての創業だけでな

く、地域との協働の観点からの取組を意識した活動も色々と行っています。本日、所管部長が不在のため具体的な内容を申し上げられず恐縮ですが、取組を進めているところです。

【委員】

これから法人を作ろうと思っているのですが、登記場所に困っています。バーチャルオフィスも一つの方法ですが、やはり信頼性の面で不安があります。例えば、区が保有している施設を登記場所にできる仕組みがあれば、零細企業を立ち上げようとしている人でも、近くで登記できて強みになるのではないかと思いました。石神井公園駅の立体化された線路の下で、たまにイベントなどが行われていますが、そのような場所にそういう施設があると良いと以前から思っています。

【庄司委員長】

ビジネスに限らず市民活動も含めて、次々と色々なことにチャレンジできる環境というのは、非常に活気を生むのではないかと思います。登記場所の話もありましたが、これからの社会では、大江戸線を使って朝早く都心に行き、夜遅く帰ってくるという生活スタイルばかりではないと思います。そう考えると、今増えてきていますが、自宅以外の働く場所、いわゆるシェアオフィスやコワーキングスペース、サテライトオフィスなどが、社会インフラとして必要になってくるのではないかと感じました。

【委員】

主婦の方が日中の時間を使って料理教室などを開きたいという相談を受けたことがあります。今の時代、主婦の方も家にいて家事だけをするという過ごし方ではなく、もっと多様なライフスタイルがトレンドになってきているのではないかと感じています。そういうことができる環境があると面白いと思いました。

【庄司委員長】

少し余計なことかもしれません、大学などもそういった場所として活用していただけとありがたいですし、学生も大学の中だけでは十分な学びが得られないで、街に出ていくような場所があると良いと思いました。

【委員】

まず、一日も早い延伸を心から望んでいます。40年前、私が高校生だった頃、父や街のおじさんたちが、当時の運輸大臣のところに行った写真をよく見ていました。光が丘駅までの延伸の時、私は中学生で、「地域がダメになるから延伸しない」という反対運動がありました。それを見ていた傍ら、大型スーパーができ、ショッピングモールができ、120店舗の古くからの名店が集まって力を合わせて盛り上がった時期もありました。ただ、20年後に残っている店はほとんどなくなってしまったという現実も目の当たりにしています。正直に言うと、商店としても皆努力はしています。ただ、この40年の中で、15年後にどうなっているのかという不安も現実的にあります。それでも未来に向けて、子どもたちの明るく元気な笑顔を見るためにも、できる限りの力を出して取り組んでいきたいと

思っています。大泉学園だけでなく、新座や所沢、その先の地域の方々にも、ますますご支援や協力をいただきながら、皆で声を上げていければと思います。大泉学園は通過点に過ぎないというくらいの気持ちで、前向きに取り組んでいきたいです。本当に、大江戸線を待ち望んでいる方は多く、未来への可能性を信じて、協力させていただければと思います。

【庄司委員長】

まだ気が早いかもしませんが、駅ができるて、その周辺を開発していく段階で、方法を間違えるとチェーン店ばかりが集まってしまう可能性があると思うますが、どうしたら良いと思いますか。

【委員】

世界中を見ても、チェーン店ばかりの街というのは確かにあります。ただ、特に我々の国がすごいと思うのは、昔の話で恐縮ですが、商店街のおじさんたちが自然と笑顔で集まって、力を合わせて、すごくエネルギーがあり、皆が一つの方向に向かって取り組んでいた、そういう素晴らしいしさがありました。駅の開発プロセスに私自身参加させていただいたことがあります、駅を出てどこも同じような表情では面白くありません。駅の中にサテライト店のような形で、店を広げたい、出したいけれど力がないという中で、交代で出店するような仕組みがあつても良いのではないかと思っています。駅前を発展させるとなると費用もかかりますし、皆が望むことなのかはしっかりと意見を聞いていく必要があると思います。今、私が課題として考えているのは、「なぜチェーン店ばかりが集まるのか」ということではなく、もっと多様な視点が必要だということです。個人でも場所を持たなくてもできることが今はたくさんあると思いますので、様々な知恵を出し合っていけると良いと思っています。

【庄司委員長】

2つキーワードとして改めて強調しておきたいと思ったのは、一つは「おじさんたちが集まって頑張った」という点です。商店街の力を結束させて、延伸に繋げてきたという流れがありました。ただ、それが衰退した地域に駅ができるようではもったいない。やはり、元気な状態を維持していくことが大切です。もう1つ印象的だったのは「街それぞれの特色を意識していきたい」という点です。同じような駅ビルが見て、同じようなチェーンのコーヒー店やコンビニが入るよりも、やはり地域ごとの特色や個性が活かされた街づくりがあると良いですよね。これは延伸する地域に限らず、区内のどこにでも言えることだと思います。こうした視点が、街づくりの重要なポイントだと感じました。

【委員】

私は主婦で、普段はボランティア活動に取り組んでいます。延伸される地域ではないところに住んでいますが、大泉学園はとても魅力的な街だと感じています。商店も素敵なお店が点在していて、駅から離れた場所にもありますし、小泉牧場や東京ワイナリーなど、個性的で素敵な場所がたくさんあります。最近、大泉学園では特徴のあるお店をインタビ

ューして動画配信する取組をしていて、そうした努力をされていることから、商店街の方々が本当に頑張っていると、大泉学園から離れたところに住んでいる私でも SNS などで拝見して感じています。

少し違う切り口になりますが、私が運営に携わる子育て支援団体では、小さなお子さんがいると通勤や保育園の送り迎えが大変で、大江戸線が通ればありがたいという声は多く聞きます。一方で、この路線は白子川を突つ切る予定です。私は白子川源流・水辺の会の方々と交流があり、息子も月に一度の清水山の森保全活動で、区の方と一緒に泥さらい活動を行ったことがあります。稲荷山公園の整備も区で進められていると思いますが、その辺りにはミニ防災井戸や湧水がたくさんあります。大泉には、井戸から水を飲める場所もあり、非常に恵まれた環境です。広い公園の整備に合わせて湧水を守ろうとされているとは思いますが、実際には少しずつ減り始めています。緑豊かで個性的な街づくりを、大江戸線の整備とともに進めるのであれば、ぜひ都には、掘削の際に湧水が枯れないよう配慮していただきたいです。例えば、白子川源流域では、護岸壁を登れない準絶滅危惧種のアズマヒキガエルの卵を地域の人たちが家に持ち帰って孵化させる活動をしています。ホトケドジョウも絶滅危惧種ですが、こうした生き物を 25 年近く守ってきた方々がいます。そうした方々に声をかければ、きっと喜んで協力してくれると思います。区民との協働で街づくりを進めるのであれば、こうした取組も含めて、官民協働で楽しく進められるのではないかと思いました。

もう一点、今年、私が運営に携わる団体が区の協働事業に採択されました。現在、子育て支援に特化した地域のボランティア団体が 65 団体参加していますが、区の方が全団体を取材し、区のホームページに活動内容を掲載してくれています。すでに 10 団体以上が掲載されています。正直、こうしたことが実現するとは思っておらず驚いています。

ただ、残念なのは検索してもなかなか出てこない点です。「子育て」「不登校」「居場所」などのキーワードで検索してもヒットしづらいのが課題です。一方で、団体名で検索すると、区のホームページが表示されることがあります。そうすると、不登校のお子さんを持つ親御さんが行き先に困ったときに、「区のホームページに載っているなら信頼できる」と安心するケースもあります。すぐに大きな変化はなくても、少しずつ動いている実感がありますし、本当に感激しています。こうした官民協働の取組を少しずつ進めていくことで、何かが変わっていくのではないかと感じています。

また、ひとり親家庭向けの学習支援事業など、練馬区が最近取り組まれている施策は本当に素晴らしいと思っています。ただ、例えば塾などに利用できる学習クーポンは、シングルマザーの方はクーポンが届いても忙しくて見ていないというケースがあります。そういった大事な情報は、私たちのような団体に投げていただければ、「こういうクーポンが届いているかもしれないから、ポストを確認してみてね」といった声かけができます。そうすることで、せっかく予算を組んで実施されている事業が、きちんと活用されるようになると思います。そのような形で今後も協働を進めていけたら嬉しいですし、そうした形で参加させていただけることをありがたく思っています。

【庄司委員長】

まず 1 つ目は自然に関する話で、緑を区のアイデンティティとして位置づけるのであれ

ば、湧水の存在をどう生かしていくかも非常に重要です。また、カエルの話もありましたが、生物を守ってくださっている方々がいるのであれば、それは地域の特色や財産とする可能性があると思います。川の護岸をどうしていくかといった点も含めて、「練馬には何があるか」と問われたときに、「緑と自然がある」と言えるようにするためにも、このテーマは非常に大切だと改めて認識しました。

それから、2つ目のお話も非常に興味深い内容だと感じました。市民活動や様々な団体との協働が、広報の一環でもあるという点です。区のホームページに掲載されることで信頼度が高まるというのは、区公式の広報に対する期待でもあると思います。一方で、区公式の広報だけでは情報が届かない層も存在します。そうした方々に対して、市民団体との協働を通じて、必要な情報を届けていくことが重要だというご指摘だったと受け止めた。

【区政改革担当部長】

私どもが公式に行っている様々な媒体を使った広報と、今ご提案いただいたような民間を通じて情報を更に広げていくという観点のお話かと思います。本日は広報の担当部長が出席しておりませんが、いただいたご意見をしっかりとお伝えさせていただきます。まさに皆様との協働によって情報発信を更に進めていくことは、区政を前に進めるために非常に重要なテーマだと感じました。

【委員】

白子川大泉井頭公園も、区と都が協力して2、30年前に整備していただきました。いつでも入れる川で、川遊びができ、昭和の時代のように、いつ行っても子どもたちがたくさん遊んでいます。他にはなかなかこうした場所はありません。それから、練馬区で素晴らしいのは区立こどもの森です。365日開いていて、穴を掘ったり、泥んこになって遊ぶことができます。練馬は子育てしやすいと皆が言うのは、やはりこうした自然体験ができるからです。今の都市部では、子どもたちが自然体験をする機会がとても少なくなっています。これから大江戸線の延伸でファミリー世代を呼び込みたいのであれば、こうした自然がそのまま残っていることが本当に大きな魅力になると思います。本当に何もない、ただ自然の原っぱがあるということが、実はとても大きな魅力になっています。

【委員】

今、白子川の話が出ましたが、今度、白子川源流祭りが開催されます。そこでは子どもたちが集まり、様々なお店を開いたり、様々なゲームをして楽しんでいます。また、町会長たちが腰まで川に浸かって白子川をきれいにしています。

大江戸線の延伸では新しい駅が3つもできます。私の考えですが、地元の人たちが集まって市場のような施設を作ってもらえると良いと思います。東京スカイツリーの中にある色々な商店は、ほとんど地元の商店です。観光客もいますが、そうでない方も野菜を買うことができます。お店を持っている方も、サテライトで出店できるような施設を作ってもらえたたらと思います。加えて、皆の居場所として街かどケアカフェや公民館などができるば、より駅が発展すると思いますが、いかがでしょうか。

【庄司委員長】

白子川の話は、とても魅力的な場所だと感じました。水がきれいなのはもちろんですが、地元の方がきれいにしているという点も、なかなか他にはないことで、本当に大切だと思います。

それから、街づくりも最近の私の研究テーマの一つです。市場の話に少し付け加えると、朝市のように常設ではなく、一時的に開催して撤退し、時には形を変えられるような取組が注目されていて非常に柔軟性があります。どんどん中身が入れ替わることもできるので、良い方法だという議論を最近よく耳にします。確かに、そうしたやり方も一つの方法かもしれません。

【委員】

幸い、大泉学園や南大泉、土支田あたりは、まだまだ都市農業がたくさん残っていて、畑も多くあり、農家の方々がトマトやトウモロコシを作っていますので、そういうものを売る市場が開かれると良いと思います。やはり、駅ができたらその周りには商店街が必要だと思います。大手のファミリーレストランなどばかり集まってきては何の意味もありませんし、せっかく駅を作ってももったいないです。3つの駅の予定地も、先日見てきたのですが、広大な土地が用意されています。ぜひ有効に活用できたら良いと思います。

【委員】

稻荷山憩いの森にはカタクリの自生地などがあり、私たちもイベントなどを行っています。一度、企業の方をご案内した際には、体験農園で農業体験をしていただき、その後、地元のお弁当をいただきたいということで、農園の野菜を使った食事を提供しました。このような特徴のある地域で、延伸される土支田などの辺りは、練馬ならではの「みどりの風吹くまち」にふさわしい場所です。練馬は23区の中でも緑被率が高く、非常に大きな宝だと思います。こうした自然体験が都心でもできるというのは、この駅ができるうことの大きな魅力だと感じています。

「区民とともに区政を進めていく」とありますが、どんなところにも地域活動をしている仲間がたくさんいますので、区民との協働がうまく回れば、きっと実現できるのではないかと思います。また、若い方たちとも一緒に、未来志向で取り組んでいくことが大切だと思います。地域活動というとシニア世代のイメージがあるかもしれません、多世代で活動し、それを区が承認している方たちですと信頼を持って進めていけるのが練馬区の良さだと思います。街かどケアカフェもすでに実現している取組です。ぜひこうした方向性で地域の人たちを活用していただき、進めていけたら良いと思います。このエリアは、そういう意味でもとても魅力があると私は思っています。

【庄司委員長】

「どんなところにも地域活動」という言葉がとても印象的でした。練馬区は、目に見えて分かりやすい建物があるというよりも、市民や区民の様々な活動がある、その多様さや活動の数が本当に多いと感じます。それを表す言葉として「どんなところにも地域活動」というのは本当に良いと思いました。

【委員】

私は40代から60代のエルダー世代の方に向けて活動しています。子育て支援やお子さんの支援、高齢者支援、障害者支援はありますが、現役の大人を支援するものがないと感じ、それがきっかけで活動を始めました。現役で仕事をされている方や、お子さんの子育てが終わった後に、急に自分の居場所がなくなる瞬間があります。そうした時にうまく高齢期に移行できれば良いのですが、そこで引きこもりがちになってしまう方もかなり多くいます。そこをどうやって地域につなげていくかが課題だと考えています。大江戸線が延伸した時、都心までのアクセスはとても楽になりますが、都心から大泉に帰るだけだと、その途中が栄えません。そうであれば、その途中で現役世代の大人たちが遊べる、集える場所があると良いと思っています。今、西武池袋線が高架化されていますが、その下を活用できるのであれば、現役世代の方たちが副業や事業、地域活動などを通じてコミュニケーションを取りながら、ジムなどで健康にもつながる、そんな場所ができたら良いと思います。時間帯によっては、午前中は子育て世代、午後は高齢者、夜は働いている方というように、その施設の使い分けもできるのではないかと考えています。

【庄司委員長】

私もその世代なのでとても共感しました。大人が集える場所は意外とないです。私も子どもが中学生、高校生になり手が離れ、だんだん時間がてきて、夫婦でスポーツに打ち込んだりしていますが、自分の趣味の見直しや人間関係のつなぎ直しのようなことが、どうしても色々な時期に出てきます。そういう時に、受け皿となるものが地域にあるかどうかは非常に大きな問題だと思いました。

【委員】

私は延伸する地域に詳しいわけではありませんが、練馬駅のあたりはチェーン店が多く、特に大江戸線が通つからえたと聞いています。延伸する地域は今、緑が多く、とても魅力的なエリアだと伺っていますが、大江戸線が通ることで、強い経済力を持つ企業が独占してしまったり、高層マンションが建つてしまったりするのをどう防ぐのかと考えながら聞いていました。今、農地が豊かだという話もあり、それを阻むような勢力が出てこないかという不安もあります。また、最近は建築関係の価格が大きく上がっており、建築計画が遅れたり、予定の予算で進まなかつたりするという話もよく聞きます。延伸地域の住宅などの整備が間に合うのかも不安に思いました。

【庄司委員長】

今、都心部は不動産価格が大きく高騰しており、いわゆるサラリーマン家庭の収入では家が買えない状況になってきています。さらに都心部では投資用の物件が増えています。千代田区などでも規制の動きが始まっていますが、10年後、15年後を見据えると、「まだ人口が増えている地域がある」「まだ開発があまり進んでいない地域がある」といった理由で、こちらに高層マンションを建てようという話になり、結局、同じような街ができてしまうのではないかという懸念は確かにあります。こうした動きに対して、計画やルールによってどうバランスを取るかが重要になってくると思います。

【委員】

この会議の発足当初から参加させていただいている立場として、その頃からの感想を交えてお話ししたいと思います。第一次みどりの風吹くまちビジョンから始まり、11年ほど経ちます。大きな骨子ができ、細かい政策に落とし込まれ、6つの柱に従ってどんどん施策が実施されていくのを見せていただけて、練馬区は安心できる区になったと私自身ずっと思っています。例えて言うならば、大きな木に6つの枝があって、どんどん枝葉が茂り、いろんな政策がそこに入っている。そのような状況だと思います。柱1は子ども、柱2は高齢者、柱3は安心福祉と、最低限、絶対にやらなければならないことだと考えています。柱4、柱5からは、より豊かにするためにはどうすれば良いかという観点で作られていてよく考えられています。そして柱6は協働という、とても良いスキームでここまで進められてきて、その内容もどんどん充実していく様子を見てきました。区長をはじめ、区職員の皆様の努力によるものだと思います。本当に頭が下がる思いですし、率直にそう感じていることをまず申し上げたいと思います。

その上で、ここまで多様なメニューができましたが、それが区民に届いているかという点については、まだまだ課題があると思います。75万人いる区民のうち、どのくらいがこの充実したメニューを知っているのかと考えると、今日も情報をどう発信できるかという話がありましたが、本当に難しい問題だと思います。ただ、区民がすべてのメニューを知っている必要はなく、必要な人に必要なメニューが届けば良いと思います。それをどう実現するかを考えたとき、子どもの分野では子育てコンシェルジュのような窓口を一つ作ってもらい、困ったときにそこに行けば、そこからつながって「あなたの場合はこういうメニューがありますよ」と教えてもらえるのがとても助かりますと申し上げたことがあり、その分野では実現していただきました。やはりそれも含めて、区の全体のメニューにアクセスするときに、「ここに聞けば全部わかる」というものが一つあると良いのではないかと思います。もちろん区役所の代表電話につなげば、「それはここの課です」と回していただけますが、例えば30分ほど時間を取ってもらい、相談ができるような仕組みがあると良いのではないかと思います。その情報の届け方についてですが、区からの発信はすでにしっかりと行っていたのだと思います。先ほど出た情報の発信の仕方を協働で行うというのも面白いと感じました。また、少し違う観点から言うと、以前、池袋駅の液晶ディスプレイを借りて練馬区の宣伝を行ったことがありましたが、たまに実施しても良いのではないかと思います。費用はかかると思うが、例えば自然体験や「練馬区ではこれができる」といった内容をキャッチフレーズのように、年に一度など定期的に発信するのも良いのではないかと感じました。多様なメニューが区民に届いているか、更に届けたいと考えたとき、例えば転入届を出す方に「困ったときはここへ」といった案内を渡せると、新しく転入された方にとって助かるのではないかと感じました。

多様なメニューがある一方で、木が茂ってきたように見えるものの、遠くから見てその木がどんな特徴なのか、つまり練馬区は何が有名なのかという点については、区長が冒頭でおっしゃったように、今こそユニークな施策を思い切って打ち出しても良い時期なのではないかと思います。今色々な意見が出ましたが、実は練馬区にはすでに資源があるのでないかと感じています。人もいるし自然もあり、交通も整ってきてています。それらをどうつなげて、皆で味わい、楽しんでいくかが大切なのではないかと思います。私なりに考

えたユニークな施策は、皆さんのご意見とも重なる部分がありますが、やはり自然や都市農業は非常に大きな強みだと思います。また、子育て支援も非常に力を入れていただいているので、「子育てに優しい街」だと自信を持って言えるのではないかと思います。本当に、23 区、つまり東京で一番お母さんに優しい区なんだというキャッチフレーズを打ち出しても良いのではないかと思います。

それから、居場所についても皆さんから意見が出ていましたが、西武池袋線の高架下や石神井公園駅の近くにちょっとした公園ができていて、人が集まっています。やはり、なんとなく入れる場所がとても大事だと思います。そういう場所をいくつか地域ごとにどんどん作っていくのが良いと思います。特別な施設でなくとも、場所があって、電気がついて、空調が効いて、Wi-Fi が使えるような、そんな場所で皆が居場所として集まり、そこから何かが発展していくのも面白いのではないかでしょうか。こうした取組を練馬区の特長としてユニークな施策として打ち出しても良いと思いますし、「どこにいても居場所がある街」というのも良いのではないかと思います。

大江戸線の延伸については、やはり「あの駅に行けばこれがあるよね」といった特長をぜひ打ち出していただきたいと思います。これは練馬区だけの力でできるかは分かりませんが、例えば大泉学園駅に行けばあれがある、練馬高野台駅に行けばあれがある、というように、見慣れたお店ばかりではなく、地域の特徴のある駅にしていただきたいと思います。

色々申し上げましたが、練馬区のこれまでの 11 年、幹から枝葉を作っていただき、だいぶ充実してきたと感じています。区の役割としては、今後はどんどん「つなげる」役割になっていくのではないかと感じました。様々な施策はもう十分に出ているので、そこに集う方々をつなげていく、意欲のある方々の力を引き出してつなげていくことも、とても有効な方向性だと思いながら聞いていました。

あと、ユニークな施策で一つ言い忘れたのですが、例えばアニメ産業が有名であれば、日本アニメ大賞のようなものを練馬区が打ち出して、全国から登竜門のような存在にするのも良いのではないかと思います。そうした大会を開催している自治体は、それが毎年全国放送されることもありますので、こうした取組は面白いのではないかと感じました。

【区政改革担当部長】

この会議で適切な窓口へつなぐコンシェルジュの必要性について議論いただきました。区のホームページでもお示ししながら、例えば子ども分野であればまずここに相談してみようという窓口を定めたことを、取組の成果も含めてこの会議でご報告したところです。ただ、ただいまのご意見を踏まえますと、まだまだ改善や更なる進化が必要だと思います。そういう専管部署については、これから検討になりますが、私どもとしては、様々な評価をいただいているように、区民の皆様にそうした取組を余すことなく分かっていただくこと、そして必要な時に必要な情報が取得できることが大変重要だと考えています。今後も引き続き、検討してまいりたいと思っています。

【情報政策課長】

情報が必要な方に届くようにという趣旨のお話だと思います。対人サービスが基本だと

考えていますが、インターネットなどの手段も皆様使えるようになってきていますので、手続のオンライン化など、どこにいても情報が得られるように進めているところです。

【委員】

コンシェルジュの話で、最近は民間などでは AI がすべて対応するようなものが増えてきたと感じます。もちろん個人情報などは AI には読み込ませられないと思いますが、「どこに連絡すれば良いのか」といったことや、外国語の翻訳も AI ができる時代になってきていると感じています。こうした仕組みを導入することで、窓口の対応がよりスマートになったり、人員削減やコストカットにつながるのではないかと思っています。もちろん中長期的な話になるとは思いますが、そのあたりについて、区としては今後どのように考えているのか、お伺いしたいです。

【情報政策課長】

AI は日進月歩でできることが増えてきています。現在、区の内部事務では、文章の要約やアイデア出しなど、すべての職員が AI を使える環境になっています。これから、それを区民向けにどう展開していくか、様々な情報を収集しながら検討している段階です。例えばホームページでは、今も検索ができるようになっていますが、検索しづらいなどの課題もあります。そこに AI を導入したらどうかといった検討も進めているところです。

【庄司委員長】

私もその分野の専門家なので、一言付け加えさせていただきます。区の様々な制度の情報やルール、事例などの情報を、いかに AI に学習させるかが今、焦点になってきています。それを外部に出す必要はありませんが、区内部の情報を学習させた AI を持つことで、かゆいところに手が届く情報を提供できるようになります。その取組を進めるためにも、内部の情報の整理や、アナログなものはもうあまりないと思いますが、デジタル化を進めて、AI が学習しやすい形にしていくことが、これから必要だと思います。

【土山副委員長】

それぞれの立場から練馬をよくご覧になっている皆様からのコメントだと感じながら、とても興味深く拝聴していました。大江戸線の延伸に期待することもありますが、同時に懸念すべき点もあると思います。例えば、輸送力の違いはありますが、日暮里舎人ライナーは非常に乗車率が高く混雑する路線になっていて、沿線は人気の場所、人気の地域になっています。地下鉄が通ると、やはり魅力のある場所として様々なチャンスが生まれ、色々な資本が投下されて、様々なことが起こると思います。それには良い面もありますが、しっかりとコントロールすべきこともあるのではないかと思います。延伸によってもたらされるものについては、人口のシミュレーションなどもありましたが、勢いがつくとすごいスピードで展開されていくことが多いです。その中で、変化をできるだけ良い方向に広げていくことや宅地やマンション開発が進んで混雑が大変になること、新しい地下鉄の路線に対してハブとなる交通機関を整備する必要があることなど、様々なことを考える必要があると思います。同時に、楽しみな練馬の未来について、多くの人たちと一緒に考え、課

題や情報を共有しながら意見交換をして、それぞれの練馬の未来への思いを語ってもらうような、そういう話し合いの機会を継続的に作れると良いのではないかと思いました。

【庄司委員長】

大江戸線延伸地域は、これから期待も込めて様々な開発が進み、人が集まっていくのかもしれません、区全体を見れば、一方で高齢化が進んでいく地域や、人口が減っていく地域もあるかもしれません。それは街の成熟度や入れ替わりのスピードが違うため、もう少し細かく見ていく必要があるのではないかと思います。この地域は子育ての活動が求められる地域だけれども、別の地域では高齢者のケアカフェが必要になってくるなど、再配置やメリハリが必要になってくるのではないかと感じます。ぜひ地域ごとに特徴や変化を捉えながら、議論を深めていく観点も、今後ますます重要になってくるのではないかと思いました。

【委員】

今、ハリー・ポッターで有名な大江戸線の豊島園駅ですが、駅前にある練馬城址公園が令和 11 年度に旧としまえんのプールエリアも含めて全て開園する予定です。今は小さな部分しかオープンしていません。2020 年にとしまえんが閉園した時、5つの周辺町会や子育て支援の団体、地域で活動している様々な団体が集まり、大工さんなども協力して、デザインパークミーティング（※2024 年にこの名称になる）という取組をずっと続けてきました。区の方にも全面的に協力していただき、都と何度も対話を続け、ようやく都の方も地元の主体的な活動に関心を持っていただき、参画いただけるようになりました。ワークショップも千葉大学や法政大学の先生をお迎えして、どんな公園にしたら良いかと一緒に考えてきました。この夏も都の方から声をかけていただき、未開園エリアの昆虫調査を子どもたちと一緒に行いました。オオタカやカブトムシ、ヒラタクワガタ、イトトンボなど、本当に生態系が豊かで驚きました。少し放置されていることも影響しているかもしれません、ここが開園したら、またすごく魅力的な駅になると思います。ハリー・ポッターの施設も、30 年後には都が買い取って都立公園になる予定です。防災の観点から言うと、普段から使っていないと、いざという時に防災公園が機能しないという話もよく聞きます。これから豊島園駅も期待できる場所になっていくのではないかと思います。

【庄司委員長】

それでは、次第に従いまして、議題（2）練馬区版総合戦略 重要業績評価指標（KPI）および第3次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン [年度別取組計画] 令和6 年度末の進捗状況についてです。事務局より説明をお願いします

【区政改革担当課長】

《資料4》説明

【庄司委員長】

それでは、資料4について事務局からの説明がありましたが、質問やご意見があればお

願いいたします。いかがでしょうか。

【土山副委員長】

私からは成果指標の難しさについて補足したいと思います。自治体が行うことは、なかなかすぐに効果が現れるものではなかったり、効果を測ることが難しかったりすることもあります。それについて、ただ「やりました」というだけでは困るのもまた事実ですが、適切な目標値を作るのが難しいこともあります。例えば、資料4の5ページの計画1「子育てのかたちを選択できる社会の実現」で、保育所受け入れ希望者数 100%を目指すというのは理解できると思いますが、例えば6ページの計画 21「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」では、ユニバーサルスポーツフェスティバルの参加者数になっていたり、計画 18「意欲ある事業者の支援と商店街の魅力づくり」では、ビジネスサポートセンターを利用した人数という指標になっていて、この数で本当に効果が出ているのか読み取りにくいところがあると思います。とりわけ、そうしたものについては、どうしても成果指標の設定を求める国との関係の中で言い訳のような数字を出さなければいけないところもありますが、現状や施策が持っている成果や課題をどう考えるかというところに、もう少し工夫があっても良いと思いました。

【委員】

今年の3月末まで区の地域福祉計画の作成に携わり、様々な検討をさせていただきました。「福祉の窓口を一本化できないか」と提案し、部署に関係なく横断的に一つの窓口で、たらい回しにならないような仕組みができないか検討を続けてきました。それが、今期までの結果だと思います。

私は街かどケアカフェも運営しており、高齢者の居場所づくりを2箇所で行っています。私たちボランティアは本当にお金がない中で様々な活動をしていますが、昨年度より補助金をいただけるようになり、非常に助かっています。そうしたこともあり、街かどケアカフェの数もだいぶ増えてきて、来てくださる方も高齢者だけでなく、小さい子どもまで幅広い世代がいらっしゃいます。やはり皆、行く場所がないのです。ですから、そういう場所をどんどん増やしていくことが地域として大切なことだと思っています。また、私は町会の地元役員も務めており、防災なども担当しています。作成に携わった福祉計画は多くの方々の苦労や、行政の方が色々動いてくださったおかげで、素晴らしいものができたと感謝しています。

【委員】

義理の父が倒れたことがありましたが、そういう時は「地域包括支援センターに行けば良い」と聞いていましたので実際に行ってみると、病院や介護などすべて動いてくれました。きちんと機能しており、たくさんのことを担当して下さっているのはとてもありがたかったです。その後も気にかけてくださいり、顔を出すたびに「どうですか」と声をかけてくださるので心強いです。

それから、15 ページの不登校対策についてです。今年、区が画期的な校内別室登校という取組を始めてくださいました。実際に子どもの支援をしていると、不登校のお子さん

が多くいることを知ります。今まで応接室を開けてくれていましたが、今回は他の人に会わずに校内の学童クラブを解放してもらえて、前より居心地が良く、少し元気になれるという声もあります。一方で、支援者がいなかつたり、ただ場所があるだけで「ここにいるだけでは一緒かな」と感じることもあるようです。ただ、今は試行段階と書いてあり、児童生徒へのアンケートでしっかり検証する予定だと聞いているので安心しています。学校によって差があるという話も聞いているので、好事例をシェアしていただき、不登校のお子さんが少しでも元気になり、学校に戻るかどうかは別としても、居心地の良い場所が学校にあれば教室に戻れる子も増えてくると思います。この施策にはとても期待していますので、今後ともよろしくお願ひします。

【委員】

この報告は、どうしても数値で測らざるを得ないということは重々承知していますが、やはり数値に到達したかどうかという自己評価の側面が強いといつも感じます。もちろん行政サービスなので相手方がいる話で、受け手である区民がどう感じたのかがなかなか見えてこないという点があります。別の方法で聞いていらっしゃるとは思いますが、その側面は一方で絶対に忘れないでいただきたいと思っています。「充実」しましたという反面、やはり形式だけでなくその質も良くなくてはいけないと思います。多様なメニューができたということだけでなく、常に意見を聞いて改善できるところは改善していくという積み重ねが大切だと思います。利用者の声をどのように受け止めていらっしゃるのか、お答えいただけすると安心します。

【区政改革担当部長】

指標の設定は、私たちも非常に難しく、どれを代表的な数値とするか悩むところです。数値で示すことにより目標や成果が分かることから、このような形にしておりますが、区議会からも同様のご意見をいただいています。私どもがお答えするのは、これはあくまで数値の一つの評価に過ぎず、A+だからそれで良かった、Bだから悪かったという単純なことではなく、それぞれの事業に対して、日頃から各課で区民の皆様や利用者の方から様々な声をいただいており、それをもとに不断の事務改善を図っていくことが何よりも重要だと考えています。本日配布したものは簡易的な資料ですが、各所管で、例えば農業であれば農園の利用者の方など、色々な方からお声を伺って見直しを進めながら区政を進めています。あくまで協働というところを大切にしていますし、これからもその姿勢は変わりません。

【委員】

この資料は区民に発信されているのか伺いたいです。なぜこの質問をさせていただくかというと、区と協働のワークショップやイベント、トークセッションの時に、区の方から、区民に色々言われてしまう可能性があるので、できれば非公開にしてほしいという趣旨の説明を受けて強烈な違和感を覚えたからです。多少の痛みや賛否はあるかもしれません、区としてやることはやっているし、それを堂々と言えば私たち区民にも取り組んでいることが伝わると思います。

【区政改革担当部長】

こちらの資料は、区議会にご報告したのち、区のホームページに全て掲載しております。ただ、ホームページに出しているだけでそれで十分かと言うと、まだまだ課題はあると思っています。情報を区民の皆様としっかり共有することが検討の第一歩だと思っておりますので、こうした資料は全て公開しております。

【委員】

公開されていて私たちも情報を取ろうと思えば取れるということが分かったのは良かったのですが、発信の部分は私たちも含めて課題だと思いました。何かより届きやすい方法があると良いと思います。

【庄司委員長】

毎年、言っているのですが、やはり「拡大」「実施」「充実」といった表現が並んでいるのは、あまり他で見たことがないような気がします。もちろん、そうとしか書きようがないものもあるわけですが、備考欄に数値が入っているのであれば、それを入れておけば良いのではないかとも思います。また、計画があつて「やることをやりました」というだけでなく、それがどう評価されているのか。「不登校対策をやりました」だけでなく、不登校の子たちはどう受け止めているのか、ということをきちんと横に並べて、評価した方が良いのではないかと思います。これは区の範疇を超えるかもしれません、そもそも不登校の子がどれだけいるのかということも、やはり横に並べてみた方が良いのではないかと思います。区だけでは扱いきれないようなテーマもたくさんあると思いますが、現状や区の対応、評価、課題、進捗状況が見えることが大事だと思います。それから、Aが多く並ぶのももったいないと思います。Aがつくと「よかったです」で終わってしまいがちですが、むしろBやCがついた方が「これをどうすればもっと改善できるか」と考えるきっかけになります。全部満点というよりは、むしろ高い目標設定をするなり、Bくらいになるような設定をして、当初より環境が変わったのか、なぜ難しかったのかということを評価の段階で考えるような、そういう指標の設定もできるのではないかと思います。

次に、次第の3 その他に入ります。何かございますでしょうか。

【委員】

資料が先週届きましたが、ページが多く全部読みきれませんでした。もう少し早めにいただけたらありがとうございます。早めにもらっても全部読めないかもしれません、少しでも理解して参加できたら良いと思いました。

【庄司委員長】

こういう資料は直前まで調整していることもあるかもしれません、少し変わるかもしれないけれど全体のイメージや固まっている部分だけでも情報提供が早く可能であればお願いできればと思います。

最後に区長から何かございますか。

【区長】

私は行政に携わって50年ほどになります。なぜ行政に入ったかというと、昭和42年に美濃部都政が誕生し、そこで大きく二つの方針がありました。一つは行政の科学性・合理性を徹底すること、もう一つは住民の参加と協働を徹底することです。この二つが非常に斬新で、そこから大都市行政が始まったと考えています。東京都中期計画を作成する際にも少し関与しましたが、そこで様々な行政計画を立て、合理化し、数字で示して進めていくということは、それまでありませんでした。さらに、単に計画を作るだけでなく、その背景として経済モデルを作り、将来の税収予測を行い、財政計画を立て、その上で財源の配分を行いました。美濃部都政が昭和42年に誕生してから10年ほどで、ある程度やりきったのではないかと今振り返っています。その後、鈴木氏が知事になり少し振り戻しがあり、その後、石原氏が知事になりました。石原氏は私が一緒に仕事をした知事の中で一番優れていたと思います。やはり科学性・合理性だけでなく、政治的なリーダーシップが必要だということを痛感させられました。例えば、今回の大江戸線についても、単に科学性や合理性だけで決められるものではありません。本当に大江戸線を必要としているのは、練馬区のしかも沿線の人たちがほとんどで、全体から見ればごく一部です。東京全体や日本全体に広げて考えると、優先度は低いのです。私が都で仕事をしていた時も、大江戸線はそんなに急がなくて良い、急ぐのは都心と臨海部だと考えていました。しかし、練馬区の立場では、どうしても進めなければならない。他の路線とのバランスを見ながら、時間をかけて実務レベルの積み上げを行ってきましたが、政治的に進めた部分もあります。ただ、これは練馬区にとって必ず将来生きてくると思っています。

つまり、行政や政治というのは、目の前の現実に科学的・合理的に取り組む面と、民主主義を徹底する面、そしてそれらをすべてひっくるめて政治として処理しなければならない面、この3つのプロセスが絡んでいるので非常に難しいのです。ですから、職員が行政の合理性を学び、政治の難しさも学び、さらに練馬区だけでなく東京全体、東京を含む大都市圏全体、更に日本全体という視点も持つことが必要です。これらをすべて合わせ持つのが行政です。本当に難しいことだと思います。住民一人ひとりの感性だけで進めることはできませんが、それを抜きにしてしまうとまた大変なことになってしまいます。そのバランスをどう取るか、それを常に考え悩みながら取り組むことが行政だと、改めて感じました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

【庄司委員長】

では、終了の時刻となりましたので、本日の会議を終了したいと思います。皆様どうもありがとうございました。